

## 在校生のボランティア意識——「在校生ボランティア体験アンケート」から

### 1 調査の目的と概要

ボランティアセンターでは、2004年度より在校生に対するボランティア体験アンケート調査をおこなっている。本学の在校生がボランティア活動にどのくらいの割合で参加しているのか、またボランティア活動に参加していないとしたらどのような阻害要因があるのかを、過去の調査結果や新入生アンケートと比較し、明らかにすることを目的とする。2007年度はとりわけ、(1) 在校生は大学入学後にボランティア活動に参加しているのか、(2) 在校生はボランティアセンターにどのような支援を期待しているのかの2点に着目した。以上のような目的に従い、2007年度も下記の要領でアンケート調査をおこない、在校生428人から回答を得られた。

調査の概要は次のとおりである。

調査対象者	明治学院大学 1年生から4年生
調査時期	2007年12月3日～14日
調査方法	各学部で選出されているボランティアセンター運営委員の担当者が質問紙を用いておこなった。
回収の結果	総数 428名 学部・学科別内訳 文学部 111名 (英文学科 107名、フランス文学科 3名、芸術学科 1名) 経済学部 1名 (経済学科 0名、経営学科 0名、国際経営学科 1名) 社会学部 178名 (社会学科 143名、社会福祉学科 35名) 法学部 42名 (法律学科 3名、政治学科 38名、消費情報環境法学科 1名) 国際学部 29名 (国際学科 29名) 心理学部 49名 (心理学科 49名) 不明 18名 学年別内訳 1年生 78名    2年生 179名 3年生 89名    4年生 59名    不明 26名

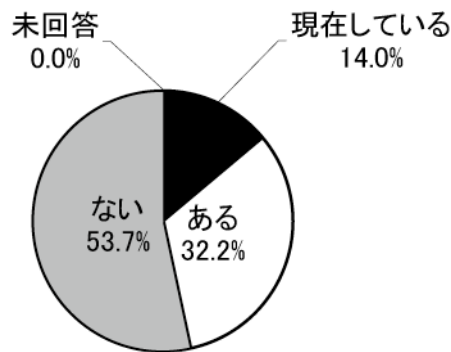
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 大学在学中のボランティア体験の有無</li> <li>* 関心のあるボランティア活動の分野</li> <li>* ボランティアセンターの認知度など</li> </ul>
------	---

## 2. 調査結果

### (1) 大学入学後のボランティア活動体験について

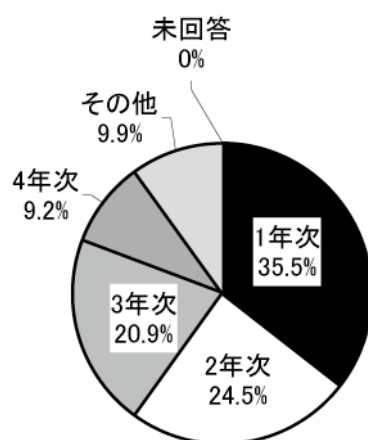
「大学入学後にボランティア活動に参加したことがありますか」【図1】と尋ねた項目では、「現在している」と回答した学生が14.0%（60名）、「したことがある」が32.2%（138名）、「したことがない」が53.7%（230名）だった。「現在している」と「したことがある」を合わせると、全学部のうち調査対象となった学生(428名)のうち46.2%（198名）が、大学在学中にボランティア活動を経験していることがわかった。

【図1】ボランティア活動の有無



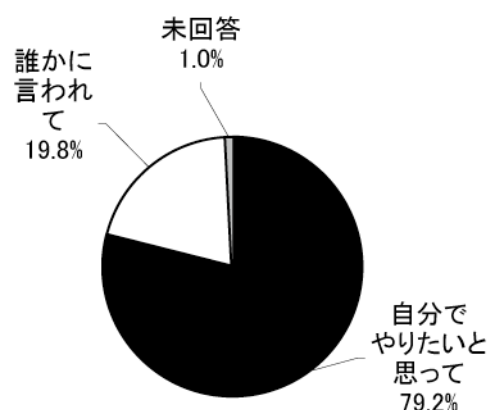
次に、ボランティア活動を「現在している」「したことがある」と回答した学生に対し、「その活動に参加した時期はいつですか」【図2】と質問した。「1年次」と回答した学生が35.5%（100名）、「2年次」と回答した学生が24.5%（69名）、「3年次」と回答した学生が20.9%（59名）、「4年次」と回答した学生が9.2%（26名）、「その他」と回答した学生が9.9%（28名）となっている。在校生アンケートに回答した学生428名のうち、1・2年生が60.0%（257名）を占め、3・4年生の回答が限定されているため、ボランティア活動に参加したことがある学生のうち、参加した時期が1・2年次だった学生の回答も、合わせて60.0%（169名）とほぼ同じ比率になっている。

【図2】ボランティア活動参加時期



ボランティア活動を「現在している」「したことがある」と回答した学生に対して、「その活動に参加した動機は何ですか」（複数回答）【図3】と尋ねた。自発的に活動に参加したのかどうかを確認する質問項目である。「自分でやりたいと思って」と回答した学生が79.2%（156名）、「誰かに言われて」と回答した学生が19.8%（39名）だった。

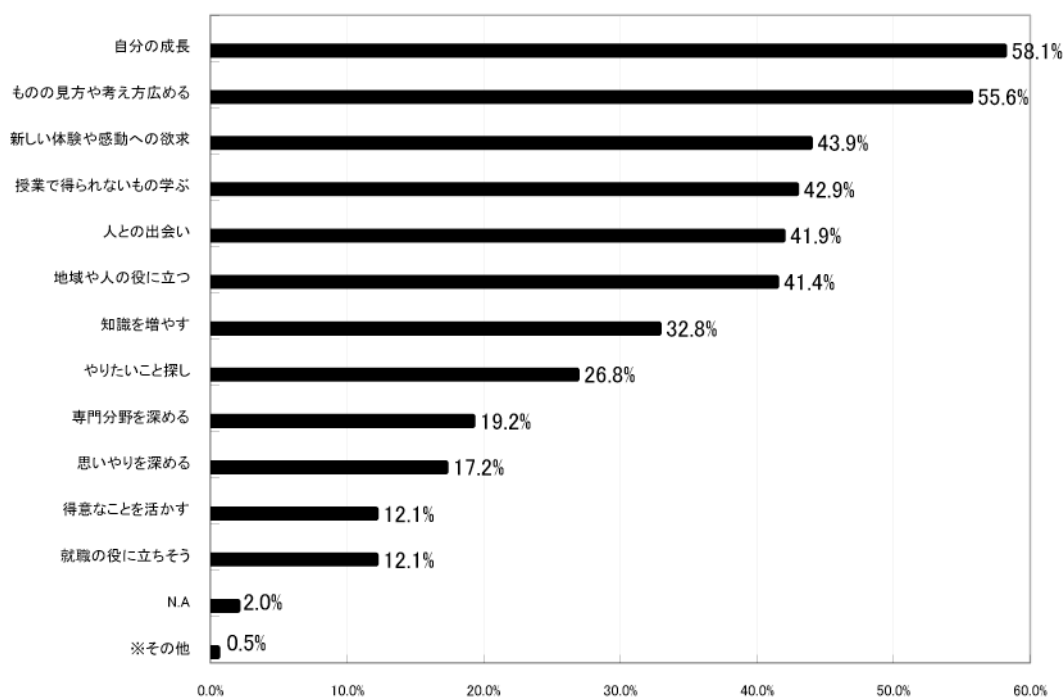
【図3】参加動機



さらに、ボランティア活動の経験がある学生に対し、「その活動に参加した理由は何ですか」（複数回答）【図4】と質問した。「自分を成長させたい」（58.1%）、「ものの見方や考え方を広めたい」（55.6%）という理由が支持を集め、次いで「新しい体験や感動がほしい」（43.9%）、「授業では得られないものを学びたい」（42.9%）、「新しい人と出会いたい」（41.9%）、「地域や人の役に立ちたい」（41.4%）と続いている。

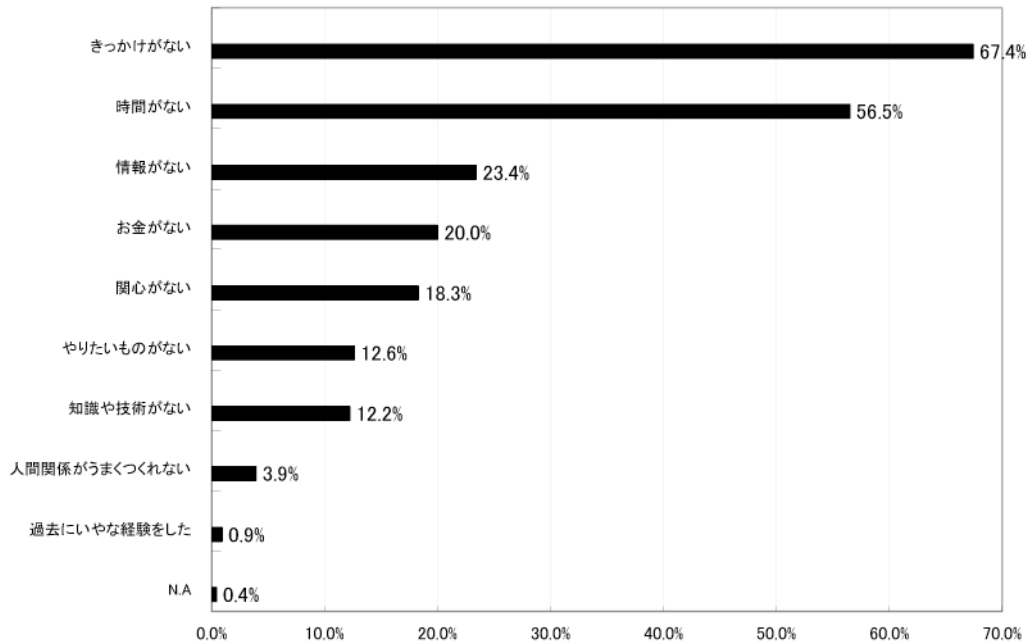
そのほかにも、「知識を増やしたい」(32.8%)、「やりたいことを探したい」(26.8%)となっている。「就職の役に立ちそうだから」といった項目には、12.1% (24名) の回答しか集まらなかった。

【図4】参加理由



他方でボランティア活動に参加した経験がないと回答した学生に対し、「その理由は何ですか」(複数回答)【図5】と質問した。上位から降順に紹介すると、第1位が「きっかけがない」(67.4%)であり、第2位が「時間がない」(56.5%)だった。次いで「情報がない」(23.8%)、「お金がない」(20.0%)、「関心がない」(18.3%)、「やりたいものがない」(12.6%)、「知識や技術がない」(12.2%)、「人間関係がうまくつけれない」(3.9%)、「過去にいやな経験をした」(0.9%)となっている。

【図5】不参加の理由



## (2) 関心があるボランティア活動について

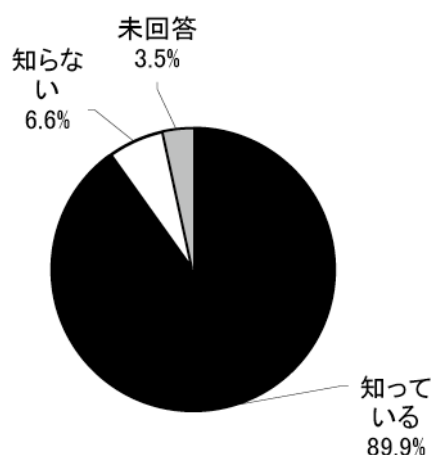
在学生の関心のあるボランティア活動分野を調べるために「関心のあるボランティア活動の分野は何か」（複数回答）と質問した。分野および領域（括弧内）ともに上位から降順に紹介すると、①「子ども」（放課後活動、保育園・赤ちゃん、キャンプ・宿泊行事、スクールボランティア）、②「国際」（異文化交流、国際協力、在日外国人支援、日本語サポート、通訳、翻訳）、③「環境」（森林保護、動物保護、ゴミ・リサイクル、地球温暖化、海・川・湖沼保護、景観保全、農業）、④「文化」（音楽、スポーツ・レクリエーション、美術館・博物館、食、演劇、歴史、科学）、⑤「まちづくり」（祭り・イベント、町並み保全・地域おこし、災害）、⑥「社会福祉」（障がい児・者、高齢者、病院、路上生活支援、病院、セルフヘルプ）、⑦「心理」（カウンセリング、フリースクール・フリースペース、メンタルフレンド）、⑧「NPO/NGO」（企画・広報、事務補助、人材育成、ホームページ管理、政策提言、資金調達）、⑨「ボランティア運営」（運営、コーディネート）となっている。

また、希望するボランティア活動のスタイルについても質問した。活動日に関しては、第1位が「長期休暇中」（73.1%）、第2位が「休日」（26.2%）、第3位が「平日」（16.1%）だった。活動の頻度に関しては、第1位が「期間を決めて」（41.4%）、第2位が「月に1～2回くらい」（28.3%）、第3位が「2か月に1回くらい」（15.2%）、第4位が「週に1回くらい」（15.2%）となっている。活動内容に関しては、第1位が「いろいろな活動に挑戦していきたい」（54.4%）、第2位が「一つの活動を続けていきたい」（39.3%）だった。

### (3) 明治学院大学ボランティアセンターについて

最後にボランティアセンターについて質問した。「明治学院大学にボランティアセンターがあることを知っていますか」【図6】については、「知っている」(89.9%)、「知らない」(6.6%)、未回答(3.5%)だった。「ボランティアセンターを利用したことがありますか」という質問については、「よくある」(4.7%)、「ある」(24.5%)、「ない」(67.1%)、未回答(3.7%)だった。「ボランティアコーディネーター等に相談したことがありますか」という質問については、「よくある」(3.0%)、「ある」(12.3%)、「ない」(80.4%)、未回答(4.2%)だった。

【図6】ボランティアセンターがあること



ボランティアセンターに対する要望を、自由記述で回答してもらった。調査対象者 428 名から合計で 37 の自由記述の回答を得た。おもな回答には次のようなものがあった。

ボランティアセンターに対する批判的な要望には、次のようなものがあった。

- ・ ボランティアとかわざわざ言わなくても、やらなきゃと思ったこと、やりたい事はやります。(社会 1 年)
- ・ 高齢者や障がい者を対象としたものが多いので、それ以外のものも充実させてほしい。ボラセンはオープンではない印象があるから、どうにかした方がいいと思う。(社会 2 年)
- ・ ボランティアという名目で障害者の人と触れ合うっていうのは、何か違うと思います。ボラセン掲示物の「オススメボランティア」って、バカにしているのかと思いました。(政治 2 年)
- ・ 授業の間の休み時間に行ったとき、対応の雰囲気がよくなかった。初めての人にもっと情報が欲しい。(社会 4 年)

- ・ 具体的に何をしているのか(ボラセンの実績)をより広くアピールした方が良い。ボランティアは“自発性”が尊重されるが、学生により参加を求め、実効性を高めたいならば、単位取得科目に組み込むことも一考の余地があるのではないだろうか…? 固いことを言わずに、ボランティア活動を推進するために必要なアイデアについて、是非頭を柔軟に持って下さい。(政治2年)
- ・ 戸塚での、地元の方々との交流イベントをつぶしたことは良くないのではないのでしょうか? 自己批判すべきだ。(政治3年)

ボランティアセンターをよく利用する学生からの要望と思える意見がいくつも見られた。提供するボランティア情報の充実やスタッフの対応など、ボランティアセンター自体の改善点に加え、ボランティア活動の単位化など、大学教育のなかでボランティアセンターをどのように位置づけるのかに関わる問題提起も見られた。

またボランティアセンターのプログラムや情報提供に関する提案には、次のようなものがあった。

- ・ 外国人の人と英語で話しながらサポートするボランティア。(社会2年)
- ・ 地元にあると行きやすい気がするので、地区別のファイルがあると嬉しいです。(心理2年)
- ・ ボランティアのタイプをABCDE…と分けて、「あなたにはこういうボランティアができる!」とか、ボランティアをするメリットをイラストで表示。具体例をわかりやすく文章に。授業内でもPR。etc…。(社会3年)
- ・ ボランティアの案内をメールなどでしてほしい。(英文2年)
- ・ ボランティアに興味がある人向けのメールみたいなものを送ってくれたら、もっとボランティアしやすくなるかも。(政治2年)
- ・ ボランティアサークルの連携、紹介などがもっとあった方が良い。また、「ボランティア」というものについての勉強会などがあったら参加したい。(法律1年)

このような提案のなかには、すでに取り組んでいるメールによる新着ボランティア情報の配信(メールマガジン)や白金・横浜キャンパスの近くで参加できるボランティア情報の提供に対する要望もあった。現在おこなっている活動が周知できていないことがわかると同時に、メールによるボランティア情報の提供や地域限定のボランティア情報に対する一定のニーズがあることも明らかになった。ほかに「サークルでお世話になっています。サークル同士のつながり、大学との連絡のパイプ役として、これからも親しみやすい立場でいてほしいです」(政治3年)という意見もあった。

### 3. 調査結果に対する考察

#### (1) ボランティア活動の体験率

在校生を対象とするアンケートの実施は、2007年度で4回目となる。2004年度におこなわれた在校生対象のアンケート調査では、全学部生に開かれた授業「ボランティアと市民社会」を履修していた1年生から4年生の165名に回答してもらった。2005年度におこなわれた調査では、学部ごとに開講されている高年次生が多く履修していると思われる授業の履修者に回答してもらい、その上で3年生と4年生のみを抽出して分析対象とした。2006年度からは、2007年度と同様、各学部から選出されているボランティアセンター運営委員が担当している授業等を中心に、1年生から4年生までを対象とする調査を実施している。2006年度は全学部596名の回答を得ることができたのに対し、2007年度は一部の学部で協力を得られず、428名の回答にとどまっている。

調査方法が同一ではないため、単純に比較はできないものの、大学在学中のボランティア活動経験の有無については次のような変遷をたどっている。2004年度は41.2%、2005年度は35.0%、2006年度は40.3%、そして2007年度は46.3%である。2004年度が比較的ボランティア活動に関心の高い学生が集まっていたことを考えると、2004年度の実績を上回る46.3%という2007年度の数字は、在校生におけるボランティア活動の体験率の高さを示している【図1】。ただし、前述のとおり、年度ごとに調査方法が異なること、2007年度については2006年度と同様の調査方法をとっているとはいえ、サンプル数も異なり、また一部の学部が欠落しているため、ボランティア活動の体験率が上昇傾向にあるのかどうかは断定できない。

#### (2) ボランティア活動への参加を阻む要因

在学中にボランティア活動を経験したことがない学生が回答した上位2つの理由は、「きっかけがない」「時間がない」だった【図5】。この二つの回答は、2004年の調査開始以降、変化がない。「きっかけがない」という回答は、2006年度が68.0%だったのに対し、2007年度は67.4%とほぼ変化がなく、また「時間がない」という回答は、2006年度が53.9%だったのに対し、2007年度は56.5%と上昇している。2005年度まで比較的高かった「情報がない」という回答は、2006年度以降20%台にとどまっており、2006年度が25.6%だったのに対し、2007年度は23.8%になっている。「お金がない」という回答は、2006年度が14.3%だったのに対し、2007年度は20.0%に上昇し、また「関心がない」という回答は、2006年度が20.5%だったのに対し、2007年度は14.3%に低下している。2006年度の調査結果と比較すると、2007年度の在校生は、参加の意欲は持ちながらも、「きっかけがない」、「時間がない」あるいは「お金がない」という理由でなかなか参加する機会がないという傾向がうかがえる。

### (3) 関心のある活動分野

2007年度の調査では、関心の高い順に、第1位「子ども」、第2位「国際」、第3位「環境」であった。2004年度から2007年度まで、第1位と第3位には変化がない。しかし2007年度はじめて第2位に「文化」に代わって「国際」がランクインしている。この質問項目を設置している理由は、新入生アンケートと同様、ボランティアセンターによる情報提供やプログラム作りの際の参考にするためであると同時に、ボランティアセンターの提供するボランティア情報に、どのような種類があるのかを知ってもらうという意図も込められている。本学の在校生が、「環境」に対する高い関心を持っているという一定の傾向に加え、2007年度は「異文化交流」、「国際協力」、「在日外国人支援」といった各領域を中心とする「国際」分野のニーズの高まりを意識する必要がある。

また、希望するボランティア活動のスタイルについては、2007年度も、過去の調査結果と同様、「長期休暇中」に、「期間を決めて」、「いろいろな活動に挑戦していきたい」と考えている在校生が多く、変化がなかった。しかし、同じ質問項目を設置している2007年度の新入生アンケートの結果と比較すると、在校生のほうが「2か月に1回くらい」よりももう少し頻度の高い「月に1～2回くらい」という回答が上回り、また「一つの活動を続けていきたい」という回答にも40%近い回答が集まるなどの特徴が見られた。授業との両立に不安を抱える新入生とは異なり、ボランティア活動と授業、そしてサークルやアルバイトなどの活動について、時間のやりくりをしながら生活している在校生らしい現実的な回答になっていると考えられる。

### (4) ボランティアセンターについて

ボランティアセンターの認知度は、ボランティアセンターがあることを「知っている」と回答した在校生が89.9%いた【図6】。ボランティアセンターの認知度については、次のような変遷をたどっている。2004年度は調査結果なし、2005年度は80.3%、2006年度は88.1%、2007年度は89.7%となっており、「知らない」と回答した在校生の割合も、2005年度は12.1%、2006年度は10.9%、2007年度は6.6%となっている。ボランティアセンターの存在は在校生の間ではかなり知られており、徐々にその認知度も上昇しているという傾向が見られる。

ただし、ボランティアセンターがどの程度利用されているのかを見てみると、「ボランティアセンターを利用したことがありますか」という質問に対しては、「よくある」が4.7%、「ある」が24.5%、「ない」が67.1%だった。「よくある」と「ある」を合わせると、利用したことがある在校生が29.2%となる。また、「ボランティアコーディネーター等に相談したことがありますか」という質問に対しては、「よくある」が3.0%、「ある」が12.3%、「ない」が80.4%だった。「よくある」と「ある」を合わせると、相談し

たことがある在校生が 15.3%となる。ボランティアセンターの存在について知っている在校生が 9 割近くいるにもかかわらず、実際に利用したことがあるのが 3 割程度、またボランティアコーディネーターに相談したことがある在校生がその約半分の 1.5 割程度という傾向が見られる。

また、ボランティアセンターの活動内容については知られていない点も多く、ボランティアセンターに対する要望を尋ねた自由記述の回答のなかにもその傾向は見られた。上には記載しなかったものの、「ボランティアセンターは、ボランティアを紹介してくれるところなのではないでしょうか」、「ボランティアセンターがどのようなことをやっているか、詳しい情報があればいいと思う」といった回答も見られた。また前述のとおり、登録制の「メールマガジン」や「校舎近隣ボランティア情報の提供」など、すでに行っているサービスやプログラムについて、知られていないと想像される回答も見られた。

#### 4. 調査の活用に向けて

過去 4 回在校生アンケートを実施し、本学の学生がボランティアセンターをどのように認知し、何を期待しているのかが明らかになってきた。2007 年度に 46.2%になったボランティア活動の体験率を、今後、どのように向上させていくことができるのか。この課題については、引き続きボランティアセンターで取り組む必要がある。また、「子ども」「国際」「環境」という 3 分野に関する情報収集に関しては、特に力を注ぐ必要がある。なかでも、2007 年度に上位にランキングされた「国際」に関する情報については、回答者の多くを占める 1・2 年生も期待していることを考えると、今後、1～2 年かけてとりわけ注目していかなければならない。と同時に、ボランティアセンターに対する要望についての自由記述回答から明らかになったように、すでにおこなっている活動をさらに周知していくことが引き続き重要であることがあらためて明らかになった。

(坂口)